

令和2年度 高等学校OPENプロジェクト実施報告書(3年次)

研究指定校	北海道礼文高等学校	教育局	宗谷教育局
-------	-----------	-----	-------

1 研究主題	
礼文の魅力探究～地域の活性化へ～	
2 研究実践内容	
月	実施内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> 1学年19名が、科目「高山植物」において、NPO法人礼文島自然情報センターの村上氏を講師として野外実習を行い、高山植物の生態などについて学んだ。(～12月)
7月	<ul style="list-style-type: none"> 2学年9名と3学年2名が、科目「生活産業基礎」及び「フードデザイン」において、礼文島産のホッケを使用したピザの商品開発を行い、地元のダイニングカフェ「海カフェ」に協力していただき、ピザの販売実習を実施した。(～8月) 2学年9名が、科目「生活産業基礎」において、礼文島の三井観光ホテルの見学と取材活動を行った。また、ホテルマネージャーの久保田氏に講演していただき、礼文島の観光業について学んだ。 2学年9名が、科目「生活産業基礎」において、礼文町の体験道場である「礼文番屋」の北野氏にご協力いただき、レタスの栽培と販売過程について学んだ。
12月	<ul style="list-style-type: none"> 2学年9名が、科目「生活産業基礎」において、水産技術指導所礼文支所の支社長である本前氏と主査の瀬戸氏を講師として、漁業の網づくりについて学んだ。
3月	<ul style="list-style-type: none"> 1学年19名が、科目「高山植物」において、1年間の学習のまとめとして高山植物ガイドブックを作成する。

3 地域みらい連携会議の開催内容	
第 1 回	令和 2 年 9 月 25 日 (金) 15 : 30 ~ 16 : 30
出席者	久保委員、瀬戸委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・全道ミーティングに向けて作成した動画やスライドについて ・これまでの取組の成果と課題について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・動画及びスライドはよい出来映えである。 ・閑散期よりも観光シーズンに観光客を増やせるような取組を考える必要がある。
第 2 回	令和 3 年 2 月 26 日 (金) 書面開催
出席者	久保委員、瀬戸委員、村上委員
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・OPENプロジェクト 3 年間の成果と課題について ・今後の地域の活性化のための取組について
指導・助言を受けた内容	<ul style="list-style-type: none"> ・今後も地域活性化のため、高校生の新しい発想によるメニューの開発に協力していきたい。 ・これからも地域を支える人材の育成に向け、地域の人材による講話を行っていく必要がある。
4 研究の成果と課題	
(1) 目的の達成状況	
<p>○ 実践研究においては、礼文島の高山植物や水産物など、地域の観光資源について考察し、その魅力を発信したり、商品開発を行ったりすることで、街づくりへの参画意識が高まり、礼文島全体の振興に主体的に関わろうとする意欲を向上させることができた。</p>	
(2) 目標の達成状況	
<p>○ 生徒アンケートにおいて、「学校と外部団体が連携し、地域に根差した教育活動を行っているか」という質問に対し、「できている」と回答した生徒は90%であった。</p> <p>○ 生徒アンケートにおいて、「地域に密着した教育活動を通してコミュニケーション能力が向上したか」という質問に対し、「向上した」と回答した生徒は100%であった。</p> <p>● 生徒アンケートにおいて、「自分が礼文島の振興に関わっていることが実感できるか」という質問に対し、「実感できる」と回答した生徒は昨年度より20%増えたが、70%にとどまった。</p>	

- 生徒アンケートにおいて、「卒業後も礼文島のために地域振興に関わっていきたいと思うか」という質問に対し、「思う」と回答した生徒は昨年度より10%増えたが、70%にとどまった。

(3) 実践研究の規模

- 理科、家庭科及び情報科を中心に、各学年で連携を図り、全校規模で実施できた。また、外部の関係者と連携を密にし、生徒主体で実践することができた。
- 3年間を見通した取組となるよう、計画段階での工夫が必要である。

(4) 研究成果の普及

- 毎月、礼高便り（学校便り）を発行し、保護者や地域の関係機関に配付し、実践内容や成果を広く地域に広報することができた。
- 学校ウェブページに本プロジェクトの具体的な取組を定期的に掲載することで、外部に情報発信することができた。

(5) 実践研究内容

- 科目「高山植物」において、動画撮影により、礼文の自然の魅力を伝える礼文島PRムービーを作成することができた。
- 科目「高山植物」において、礼文島内の4カ所で高山植物の実習を行うことで、多くの高山植物を観察することができた。
- 科目「高山植物」において、礼文島の自然について理解を深めることで、礼文島のガイドブック作成に当たって、記載できる項目を増やすことができた。
- 科目「高山植物」において、動画撮影の機材の整備や強風の中で音声を録音することなどに課題が見つかった。
- 科目「生活産業基礎」において、花れぶんや水産技術指導所、礼文番屋、海カフェ、株式会社やまじょうなどの関係機関や企業と連携し、礼文島の資源を活用した商品開発を行い、販売することができた。

(6) 地域みらい連携会議

- 礼文島の実態を把握するための調査方法について、適切な助言を得ることができ、観光客来島数調査や礼文島のお土産のニーズに関する調査、観光客のホテルの選定調査など、目的に合った調査を実施できた。
- 地域の課題について、地域全体で協力して課題を解決していく必要があることを確認することができた。
- 新型コロナウイルス感染症の影響により、計画通りに会議を実施することが難しかった。会議の実施回数や実施方法、実施時期について検討する必要がある。

5 プロジェクトの達成状況	
<p>(1) [評価の観点] 本道の基幹産業を支える人材や、地域を守り支えていく人材の育成について</p>	
<p>(評価) ④ 学校全体として、本道の基幹産業や地域を支える人材の育成につながる取組となった。</p>	
<p>(評価した理由) 漁業や観光業を中心に学ぶことで、北海道や礼文島について理解を深め、考えることができたため。また、生徒のアンケートの結果により、多くの生徒が卒業後も地域振興に関わっていきたいと答えているため。</p>	
<p>(2) [評価の観点] 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関との協働について</p>	
<p>(評価) ④ 地域の自治体や企業、産業界等の関係機関と協働した取組を実施し、成果や課題を共有している。</p>	
<p>(評価した理由) 地域みらい連携会議を通して、本プロジェクトの成果と課題を共有し、新たな課題について話し合い、礼文町内の関係機関と連携して課題の解決に向けた取組ができたため。</p>	
<p>(3) [評価の観点] 生徒の主体性について</p>	
<p>(評価) ③ 生徒は、指示の範囲で主体性を持って取り組むことができている。</p>	
<p>(理由) 生徒は、礼文高校の一員として主体的に本プロジェクトの目標の達成に向け活動しているため。</p>	
<p>(4) [評価の観点] 地域課題の解決状況について</p>	
<p>(評価) ③ 取組により、地域課題の解決につなげることができた。</p>	
<p>(理由) 礼文島の課題について、地域みらい連携会議で情報を共有し、課題の解決に向けて取り組むことができたため。</p>	
6 今後の取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・閑散期の観光客を増やすための取組について継続して探究していく。 ・観光シーズンの観光客を更に増やすため、礼文島の魅力を発信していく。 ・関係機関や企業等と連携して、地域の活性化に向け、地域全体で取り組んでいく。 	

7 参考資料

(1) 1年生「高山植物」について

- ・久種湖や桃岩展望台、礼文林道、江戸屋山道に咲く高山植物について、講師から説明を受け、写真を撮り記録する様子



(2) 2年生「生活産業基礎」について

- ・礼文島のホッケを使ったピザの商品開発と海カフェでの提供の様子



- ・三井観光ホテルでの取材の様子



- ・礼文番屋でレタスの水耕栽培を体験する様子



- ・水産技術普及指導所礼文支所で網づくりを体験する様子

